

地域を知ることから始まる

地域コミュニティづくり



小坂地区の「紹介まち歩き」

- ① 出発前のルート確認
- ② 龍谷寺での聞き取り
- ③ 散策後の各コースの報告

市では、地域を守り将来へつなぐため、地区公民館の範囲での地域づくりを行う「新しい地域コミュニティ」を推進しています。

平成29年4月から、地区公民館が「(仮称)コミュニティセンター」に移行することから、順次、モデル地区として、その準備を進めています。

これまで、地域生活の多くの部分は、区などが中心に担ってきました。しかし、過疎化や少子化、高齢化が進むとともに、まちなかでは住民同士のつながりが希薄となってきたっており、区の活動が弱まってきたいます。

このことから、区内の支え合いを補完するため、新しい地域コミュニティは、ある程度の人口が確保され、顔が見える範囲で組織します。

そこでは、地域の魅力や課

題の発見が重要で、多くのモデル地区では「ワークシヨップ」や「まちむらたんけん」を通じた「地域を知る」取組みを行い、地域の特色ある活動に結び付けています。

今回は、小坂コミュニティ準備会(出石地域)の「紹介まち歩き(まちむらたんけん)」の事例を紹介いたします。

小坂地区「紹介まち歩き」

小坂地区(13区)では、区長会を中心とした小坂コミュニティ準備会を設立し、コミュニティ組織設立に向けた検討を7月から開始しました。

準備会には、各区から5人程度が参画。年齢、性別、区、地区での活動内容などの異なる住民56人で検討をしています。

8月29日、地区内の区を区長が紹介しながら散策していく「紹介まち歩き」が開催されました。

コースは13区を5コースに分け、50人の参加者が行きたいコースを選び散策しました。見どころを紹介する人の他に、カメラ係などのスタッフを事前に決め、同行させまし

た。

カメラ係は写真記録、殺虫剤係は虫よけスプレーの対応、地図係は実際に歩いたコースを地図に記録していく役割を分担。調査票係の役割はユニークで、参加者が地域を巡る中で何げなく発する「つぶやき」を記録することで、参加者の自然体の声を聞いていきました。

散策終了後、参加者は地区公民館に戻り、それぞれのコースを報告。スライドを見ながら、全員で地域内の状況を見共有しました。

また、小坂コミュニティ準

地域 コミュニティ

地区(公民館単位)の取組み

《問合せ》コミュニティ政策課 ☎21-9020



- ④ 紹介まち歩きの様子をまとめた小坂コミュニティ準備会だより
- ⑤ 参加者に楽しく地域を知ってもらうための準備会役員の打合せ
- ⑥ 紹介まち歩き後に参加者全員でおにぎり作り
- ⑦ 新たな発見を胸に参加者全員で集合写真

備会だよりでも、今回巡ったコースを紹介し、参加していない方にも地域の紹介をしました。

今後、調査票係が「つぶやき」のまとめや参加者の意見を参考に、地域の課題や魅力を整理していく予定です。

「参加者の主な「つぶやき」

▽神社の参道の草刈りが必要だなあ。

▽空き家や空き地が増えてきたなあ。

▽歴史的に価値のあるものが地区にあるのでマップでもあればなあ。

▽昔はスキー場があったんだなあ。

地域を知ることから

「まちむらたんけん」は地域全体を見つめ直すきっかけとなり、区、地域コミュニティでの役割分担や既存の活動の見直しなどを地域で考えていくことにもつながります。

また、地域住民同士で継続的に「地域を知る」取組みを行うことが重要です。そのことで柔軟な活動や計画につながり、地域の新しい仕組みづくりに結び付きます。

地域づくりは、初めから完璧な仕組みができるものではありません。地域を点検し、地域で共有し続けることが重要です。

今回取り上げた「まちむらたんけん」のやり方を含む、コミュニティ組織づくりの進め方を「豊岡市新しい地域コミュニティ導入ガイドブック」で紹介していますので、参考にしてください。

ガイドブックは次のURLからダウンロードできます。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1430466198941/index.html>

高橋地区でもやっています～高橋ふるさと探訪～

高橋振興対策協議会(10区)では、地区内の魅力を発見する「高橋ふるさと探訪」を3年前から実施しており、毎年1から2区を回っています。

今年は10月4日に開催され、2歳から83歳までの90人が4班に分かれて大河内区内を回りました。散策後は、区内にある楽音寺で、マップづくりワークショップを実施。各班に分かれ、発見したことを付箋に書いて貼り出したり、撮った風景写真を地図に貼り出して、それぞれのコースを振り返っていました。



▲マップづくりワークショップ